

# 教育環境改善に貢献

ネパールの山村に、福岡博多東ライオンズクラブ（福岡市）が学校を建設し、20年を迎えた。当初は小学校だけだった学校を中高にも拡大。これまでに207人が卒業した。劣悪な教育環境を改善すると

いう所期の目的は達成したというが、住民の経済的自立と学校の自主運営にまで視野を広げ、同クラブが立ち上げたNPO法人「福岡・ネパール児童教育振興会（福岡市）」が主体となり支援を続けている。



福岡博多東LC

## 経済的自立支援も視野

同クラブが結成30周年記念、就学しない子どもが多かった事業として、福岡ニルマルボカリ小学校を開設したのは1999年7月。村に公立学校はあったが、学費が必要なら、自給自足が主な農家では0人が入学。ただ、うち約120人の子ともは貴重な労働力であるが1年目に留年した。農繁期

には子どもに限らず、教師さえも学校を休んで農業をするという生活スタイルが背景にあったという。振興会は地域住民や保護者による学校運営組織に働き掛け、「学校に行こう」という運動を展開すると、出席率は改善していった。小学校を卒業してもその先の教育機関に恵まれなかったため、2003、07年には中高を拡充し、建物を増設。ボカリ小学校からボカリ学校に改めた。開校から10年後には「住民自身による学校経営」を目指していたため、農家が授業料を十分に払えるまでの現金収入を得られる手段として、03年にコーヒー栽培を促した。

農家に、購入した苗木約6千本を植えてもらったが、水やりや手入れをする意識が農家になく、1年で半数が枯死した。

福岡・ネパール児童教育振興会（092-712）4351。（四宮淳平）

## ネパールの山村 学校建設から20年続く支援



①福岡ニルマルボカリ学校で学ぶ子どもたち  
②ネパールにある福岡ニルマルボカリ学校

## 「日本で活躍できる人材を」

福岡ニルマルボカリ学校の20年は、住民に教育の機会を与えただけでなく、ネパール市民の教育についての意識を高める一翼を担ったはずだ。ネパールにはカースト制度（身分制度）があった影響で、低い階級だった家庭は公立学校に行かず、親の仕事を手伝うだけのケースが少なくなかった。

だが、ボカリ学校は開校から10年間は完全に無償だったため、低い階級で貧しい家庭

NPO法人福岡・ネパール  
児童教育振興会  
篠隈 光彦理事長(77)



の子ともも通うことができた。卒業して看護師になった人もおり、階級にとらわれず、教育の必要性を感じる住民意識が高まったと認める。

私たちの動きと並行するよう、ネパールは2016年7月、全国民に質の高い教育を受ける機会を20年7月までに確保するという方針を打ち出した。無償で通える公立学校が全国各地に整備されることになり、授業料を取るボカリ学校は特色ある教育が求められるようになった。

これは、卒業途上国に対する日本の支援のあり方も連動していると思う。

ボカリ村は当初、建物の建設費も運営費も全て日本側が持ち、いわば住民はサービスを受け手になっていた。

しかし、本来求められるのは住民自身による学校運営であり、われわれはコーヒー豆の栽培による住民の経済的自立を後押ししてきた。地元自治体に補助金も求めている。ボカリ学校は日本語も教えており、今後はITの活用、医療系のカリキュラム導入を模索している。単なる労働力ではなく、人材として日本で活躍できる人を育てる支援をしていきたい。つながりの強い福岡に来る人も多いだろうし、ネパールの発展にも寄与することが期待できる。

(談)